

SQL Compare


プロジェクトオプション設定の説明

プロジェクト オプションの設定

プロジェクト オプションを使用すると SQL Compare の動作を変更できます。たとえば、あるオブジェクトが異なってもそれらを無視するように SQL Compare を設定できます。あるいはデプロイメントのために特定のプロパティ（たとえば列の照合順序）をスクリプトに出力しないように設定できます。

新しいプロジェクトを作成するときは、デフォルトのオプション設定のままに比較処理を実行し、結果を確認してください。ただしデータベースが大文字小文字を区別してソートが行われる SQL Server 上にある場合は、*[Use case sensitive object definition]*[大文字小文字を区別する]オプションを選択する必要があります。比較結果を検討した結果、いくつかのオプションの変更が必要な場合があります。

設定したオプションは各プロジェクトごとに保存され、Project Configuration ダイアログ ボックスで変更できます。

Project Configuration ダイアログ ボックスを表示するには、（プロジェクトの変更）をクリックするか、Tools メニューから **[Project Options]** を選択します。

一部のオプションは比較作業に対してのみ適用され、デプロイメントには影響しません。同様に、一部のオプションはデプロイメントに対してのみ適用されます。

デフォルトのオプションとして保存するには

現在選択されているオプションをデフォルトにするには、**[Save As My Defaults]** [マイデフォルトとして保存する]をクリックします。新しいプロジェクトに対して、マイデフォルトが適用されます。オプションに更なる変更を加えた後に、再びマイデフォルトに戻りたい場合は、**[My Defaults]** をクリックします。

すべてのオプションを工場出荷時の設定にリセットするには、**[Red Gate Defaults]** をクリックします。プロジェクトのデフォルトオプションは次の通りです。

- Decrypt encrypted objects on 2005 and 2008 databases（2005 及び 2008 データベースで暗号化されたオブジェクトを復号する）
- Ignore white space（空白を無視する）
- Ignore fill factor and index padding（ファイル ファクターとインデックスの埋め込みを無視する）
- Ignore file groups, partition schemes, and partition functions（ファイルグループ、パーティション スキーマ、及びパーティション関数を無視する）

- Ignore user properties（ユーザープロパティを無視する）
- Ignore WITH element order（WITH エレメントの順序を無視する）
- Ignore database and server names in synonyms（データベース名とサーバー名の別名を無視する）

オプションを検索するには、**検索**ボックスにキーワードを入力します。

Add object existence checks

（関連オブジェクトの有無を確認する）

このオプションを有効にすると、SQL Compare は、デプロイメント スクリプトに IF EXISTS ステートメントを追加することで、デプロイメントによって影響を受けるオブジェクトが存在するかどうかを検査します。

このオプションは、たとえばデプロイメント スクリプトを複数回実行する場合に便利です。

Use DROP and CREATE instead of ALTER（ALTER の代わりに DROP と CREATE を使用する）

このオプションを有効にすると、SQL Compare は次のオブジェクトに対して、デプロイメント スクリプト内の ALTER ステートメントを DROP と CREATE ステートメントで置換します。

- ビュー
- スタアド プロシージャ
- 関数
- 拡張プロパティ
- DDL トリガー
- DML トリガー

このオプションを有効にした場合は、**[Add object existence checks]**[関連オブジェクトの有無を確認する] オプションも選択する必要があり、これを選択しなかった場合はデプロイメント スクリプトは失敗します。

Enable fast deployment

(高速デプロイメントを有効化)

このオプションを有効にすると、Project Configuration ダイアログ ボックスからデータベースをデプロイでき、比較結果の表示やデプロイメントウィザードを省略できます。

このオプションを選択したら、[Deploy Now] ボタンをクリックしてデータベースをデプロイします。

デフォルトでは、すべてのオブジェクトがデプロイされます。デプロイするためのオブジェクトを選択する場合は、比較処理を実行し、オブジェクトを選択し、プロジェクトを保存する必要があります。

Use case sensitive object definition

(大文字小文字を区別したオブジェクト定義を使用する)

大文字小文字を区別して照合を行うデータベースの場合に、オブジェクト名を区別して比較しデプロイできるようにします。たとえば、*A*Table と *a*table などのオブジェクト名は異なるものであるとし、ストアド プロシージャに対して大文字小文字を区別した比較を実行することができます。

このオプションは、バイナリまたは大文字小文字を区別したソート順序を持つデータベースの場合にのみ使用してください。

このオプションを有効にするときは両方を同じ設定にしてください。たとえば、このオプションを選択してデータベースのスナップショットを作成し、そのスナップショットを、このオプションを無効にした別のデータベースと比較すると、SQL Compare は予期しないエラーを生じる場合があります。

Use database compatibility level

(データベースの互換性レベルを使用する)

SQL Server バージョンの代わりにデータベースの互換性レベルを使用します。

Force column order

(列順序を強制する)

テーブルの任意の場所に追加の列が挿入された場合、このオプションを有効にすると、デプロイメント後に列順序が正しくなるようにテーブルが強制的に再構築されます。 データは維持されます。

Do not use transactions in deployment scripts (デプロイメント スクリプトでトランザクションを使用しない)

デプロイメントスクリプトからトランザクションを削除して、可読性の優れた SQL コードを生成します。

このオプションが無効なときにデプロイメント スクリプトが失敗した場合、スクリプトは失敗したトランザクションの先頭にロールバックされます。 このオプションが有効な場合は、スクリプトはロールバックされません。これは、スクリプト内のエラーを検出するときに便利です。

デプロイメントがメモリ最適化オブジェクト (メモリ最適化テーブル、ネイティブ コンパイルされたストアド プロシージャ、またはメモリ最適化テーブル タイプ) を含む場合は、このオプションを選択して有効なデプロイメントスクリプトを作成する必要があります。

詳細については、[メモリ最適化オブジェクトのデプロイ](#)を参照してください。

Do not add error handling statements to deployment scripts

(デプロイメント スクリプトにエラー処理ステートメントを追加しない)

デプロイメントスクリプトからエラー処理ステートメントを削除して、可読性に優れた SQL コードを生成します。

スクリプトを実行したときにこのオプションが無効な場合、スクリプトはエラーが発生したときに実行を停止します。このオプションは、エラー発生時でもスクリプトを実行し続けたい場合に便利です。

SQL Compare を使用してデプロイした場合、デプロイメントはエラーが発生すると常に停止します。

このオプションは、上記の[Do not use transactions in deployment scripts] オプションが選択されている場合にのみ選択できます。

Add WITH ENCRYPTION

(WITH ENCRYPTION を追加する)

スタアドプロシージャ、関数、ビュー、及びトリガーがデプロイメントに含まれているときに、WITH ENCRYPTION を追加します。

SQL Compare がスナップショットを作成する場合、このオプションは無視され、WITH ENCRYPTION はスナップショットに保存されません。

SQL Server 2005 データベースで ADD ENCRYPTION を使用すると、SQL Compare は暗号化されたオブジェクトを表示、比較、またはデプロイできません。

Do not use ALTER ASSEMBLY to change CLR objects

(CLR オブジェクトを変更するために ALTER ASSEMBLY を使わない)

このオプションは SQL Server 2000 データベースには使用されません。

CLR オブジェクトがデプロイされる場合、このオプションは、ALTER ASSEMBLY を使用する代わりに、文字列への変換と文字列からの変換の 2 回の変換を強制的に行ってテーブルを再構築して CLR オブジェクトを更新します。詳細については、[デプロイメントの基本](#) を参照してください。

このオプションはデプロイメントに対してのみ影響します。

Consider next filegroups in partition schemes

(パーティション構成で次のファイルグループを考慮する)

このオプションは SQL Server 2000 データベースには使用されません。

このオプションが有効なときに、パーティション構成に次のファイルグループが含まれていると、パーティション構成が拡張された場合、SQL Compare は比較とデプロイメント内の次のファイルグループを考慮します。次のファイルグループはデータの保存方法には影響しません。

次のファイルグループを無視するには、このチェックボックスをオフにします。

Disable DDL triggers during deployment (デプロイメント中の DDL トリガーを無効化)

このオプションは SQL Server 2000 データベースには使用されません。

DDL トリガーは、デプロイメントの実行時に問題を引き起こす可能性があります。データベースをデプロイする前にこのオプションを有効にしてすべての有効な DDL トリガーを無効にし、デプロイメント後にこれらのトリガーを再び有効にしてください。

Don't include a comment header in the deployment script

(デプロイメント スクリプトにコメント ヘッダーを含めない)

このオプションを選択すると、コメントヘッダーはデプロイメントスクリプトに含まれません。

Add database USE statement

(データベースの USE ステートメントを追加する)

デプロイメントスクリプトの先頭にデータベースの USE ステートメントを追加します。このオプションはデプロイメントに対してのみ影響します。

Decrypt encrypted objects (暗号化オブジェクトを復号する)

このオプションは SQL Server 2000 データベースには使用されません。このオプションを選択すると、SQL Compare は暗号化されたデータベース オブジェクトを復号します。

SQL Compare がスナップショットまたはスクリプト フォルダーを保存するときに、このオプションが設定されていると、すべての暗号化オブジェクトが復号されます。

大きなデータベースを比較するときに、このオプションを有効にしていると、パフォーマンスが遅くなる場合があります。

Ignore migration scripts for databases (データベースの移行スクリプトを無視する)

このオプションを有効にすると、データベースを比較したときに SQL Compare は移行スクリプトを取得しません。

デフォルトでは、関連するリビジョン番号を持つデータベースを比較したときに、SQL Compare はソースコントロールに接続して該当移行スクリプトを取得しようとします。

このオプションは、データベースを比較したときにソースコントロールへの接続でエラーが発生した場合に便利です。

Use migration scripts V2 (beta) instead of V1 (移行スクリプト V1 の代わりに V2 (ベータ) を使用する)

Migrations V2 ベータを有効にします。V1 移行スクリプトは無視されます。

詳細については、SQL Source Control ドキュメントの [Migration scripts V2 beta](#) を参照してください。

Database project compatible script folder output (データベース プロジェクト互換スクリプト フォルダー出力)

このオプションは、スクリプト フォルダー出力を強制的に最新の Visual Studio データベース プロジェクト タイプのスタイルに合わせます。

Ignore indexes (インデックスを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、インデックスを無視します。

Ignore permissions (権限を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、オブジェクトの権限を無視します。

Ignore DML triggers (DML トリガーを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、DML トリガーを無視します。

Ignore constraint and index names (制約名やインデックス名を無視する)

データベースを比較するときに、インデックス、外部キー、主キー、及びデフォルト制約、一意制約、及びチェック制約の名前を無視します。これらの名前は、データベースがデプロイされるときは無視されません。

Ignore system named constraint and index names (システムが付けた制約名やインデックス名を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、インデックス、統計、外部キー、主キー、及びデフォルト制約、一意制約、及びチェック制約の名前を無視します。

Ignore whitespace (空白を無視する)

データベースを比較するときに、空白（改行、タブ、スペースなど）を無視します。空白は、データベースがデプロイされるときは無視されません。

Ignore comments (コメントを無視する)

ビュー、ストアドプロシージャなどを比較するときに、コメントを無視します。コメントは、オブジェクトがデプロイされるときは無視されません。

Ignore full-text indexing (フルテキスト インデックスを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、フルテキストカタログとフルテキストインデックスを無視します。

Ignore users' permissions and role memberships (ユーザーの権限とロール メンバーシップを無視する)

ロール によるセキュリティが使用されている場合、オブジェクトの権限はユーザーに対してではなくロールに対して割り当てられます。このオプションを選択した場合、SQL Compare は、ロールに対してのみのオブジェクト権限と、ロールのメンバーを比較しデプロイします。ユーザーの権限とロール メンバーシップは無視されます。

Ignore statistics (統計を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、統計を無視します。

Ignore foreign keys (外部キーを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、外部キーを無視します。

Ignore check constraints (チェック制約を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、チェック制約を無視します。

Ignore identity seed and increment values (自動採番の 初期値と増分値を無視する)

自動採番 プロパティに対して、データベースを比較するときに、自動採番の 初期値と増分値を無視します。これらは、データベースがデプロイされるときは無視されません。

Ignore fill factor and index padding (フィル ファクターとインデックス 埋め込みを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、インデックス及び主キー内のフィルファクターとインデックス埋め込みを無視します。

Ignore INSTEAD OF triggers (INSTEAD OF トリガーを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、INSTEAD OF DML トリガーを無視します。

Ignore bindings (バインディングを無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、列とユーザー定義型のバインディングを無視します。たとえば、`sp_bindrule` と `sp_bindefault` 句は無視されます。

Ignore WITH NOCHECK (WITH NOCHECK を無視する)

外部キー及びチェック制約の WITH NOCHECK 引数を無視します。

disabled (無効) になっている外部キーや制約は無視されません。

Ignore filegroups, partition schemes, and partition functions

(ファイルグループ、パーティション 構成、及びパーティション関数を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、テーブルとキーのファイルグループ句、パーティション 構成、及びパーティション関数を無視します。比較結果にはパーティション構成とパーティション関数は表示されません。

Ignore extended properties

(拡張プロパティを無視する)

データベースを比較しデプロイするときに、オブジェクトとデータベースの拡張プロパティを無視します。

Ignore SET QUOTED_IDENTIFIER and SET ANSI_NULLS statements

(SET QUOTED_IDENTIFIER 及び SET ANSI_NULLS ステートメントを無視する)

ビュー、ストアドプロシージャなどを比較するときに、これらの SET ステートメントを無視します。これらのステートメントは、データベースがデプロイされるときは無視されません。

Ignore collations (照合を無視する)

データベースを比較及びデプロイするときに、文字データ型の列の照合を無視します。

Ignore certificates, symmetric keys, and asymmetric keys

(証明書、対称キー、及び非対称キーを無視する)

このオプションは、SQL Server 2008 及び SQL Server 2005 データベースに対してのみ使用されます。

SQL Server は証明書、対称キー、及び非対称キーへのアクセスを厳格に制限しています。その結果、SQL Compare は対称キーのすべてのプロパティを必ずしも比較することはできません。デプロイメントで証明書、対称キー、及び非対称キーが選択された場合、権限のみがデプロイされます。

Ignore DML trigger order

(DML トリガー順序を無視する)

DML トリガーは、FIRST INSERT や LAST UPDATE などのように順序が指定できます。このオプションを指定すると、データベースを比較しデプロイするときに、DML トリガーのトリガー順序が無視されます。DDL トリガーの順序は影響されません。

Ignore event notification on queues

(キューのイベント通知を無視する)

このオプションは、SQL Server 2008 及び SQL Server 2005 データベースに対してのみ使用されます。データベースを比較及びデプロイするときに、キューのイベント通知を無視します。

Ignore user properties (ユーザープロパティを無視する)

このオプションは、SQL Server 2008 及び SQL Server 2005 データベースに対してのみ使用されます。

このオプションが無効な場合、SQL Compare はユーザーのタイプ (SQL、Windows、証明書ベース、非対称キーベース) やすべてのスキーマなどのユーザープロパティを比較します。デプロイメントに対してユーザーが選択された場合、SQL Compare は可能な限りプロパティをデプロイします。

このオプションが選択された場合、ユーザーのプロパティは無視され、ユーザー名のみが比較されデPLOYされます。

Ignore WITH element order (WITH エレメントの順序を無視する)

スタアド プロシージャ、ユーザー定義関数、DDL トリガー、DML トリガー、またはビューに複数の WITH エレメント（たとえば暗号、スキーマ バインディングなど）が含まれている場合は、データベースを比較してデPLOYするときに、このオプションを選択して WITH エレメントの順序を無視します。

Ignore LOCK properties of indexes (インデックスの LOCK プロパティを無視する)

このオプションは、SQL Server 2008 及び SQL Server 2005 データベースに対してのみ使用されます。

データベースを比較及びデPLOYするときに、インデックスの PAGE LOCK と ROW LOCK プロパティを無視します。

Ignore replication triggers (レプリケーション トリガーを無視する)

データベースを比較及びデPLOYするときに、レプリケーショントリガーを無視します。

Ignore NOT FOR REPLICATION (NOT FOR REPLICATION を無視する)

外部キー、自動採番、チェック制約、及びトリガーの NOT FOR REPLICATION オプションを無視します。

このオプションを選択すると、外部キー、自動採番、及びチェック制約に対するオブジェクト作成スクリプト内には NOT FOR REPLICATION ステートメントは表示されません。

トリガーの場合、NOT FOR REPLICATION ステートメントは、オブジェクト作成スクリプトには表示されませんが、比較目的のために無視されます。トリガーを比較するときは、[Ignore white space] オプションも選択する必要がありますが、このオプションは比較内のすべてのオブジェクトにも適用されます。

定義内に NOT FOR REPLICATION ステートメントを含むチェック制約や外部キーは、自動的に WITH NOCHECK のフラグが付きます。これらのオブジェクトを同じものとして識別するためには [Ignore WITH NOCHECK] オプションを使用します。ただし、これはすべてのオブジェクトの制約に適用されます。

Ignore identity property on columns (列の自動採番プロパティを無視する)

データベースを比較するときに、列の自動採番プロパティを無視します。自動採番プロパティは、データベースがデPLOYされる場合は無視されません。

Ignore data compression (データ圧縮を無視する)

このオプションは SQL Server 2008 データベースにのみ使用されます。

テーブルとインデックスのページ及び行の圧縮を無視します。[Ignore filegroups] が選択されている場合は、パーティション化されたテーブルに対して圧縮は自動的に無視されます。

Ignore database name and server name in synonyms (データベース名とサーバー名の別名を無視する)

データベースを比較するときに、データベース名の別名を無視します。

Ignore owner authorization on schema objects (スキーマ オブジェクトの所有者承認を無視する)

このオプションは SQL Server 2008 及び 2005 データベースにのみ使用されます。データベースを比較及びデプロイするときに、スキーマ修飾オブジェクトの承認句を無視します。

Ignore STATISTICS_NORECOMPUTE property on indexes

(インデックスの STATISTICS_NORECOMPUTE プロパティを無視する)

インデックス及び主キーの STATISTICS_NORECOMPUTE プロパティを無視します。

Ignore square brackets in object names (オブジェクト名の大括弧を無視する)

大括弧を使ってエスケープされているオブジェクト名内の開始及び終了大括弧を無視します。これは、ストアードプロシージャやトリガーなどのテキストオブジェクトに適用されます。

Ignore tSQLt framework and tests (tSQLt フレームワーク及びテストを無視する)

tSQLt スキーマとそのコンテンツ、tSQLtCLR アセンブリ、SQLCop スキーマとそのコンテンツ、及び tSQLt.TestClass 拡張プロパティセットを持つすべてのスキーマとそのコンテンツを無視します。

Ignore encryption of object text

(オブジェクト テキストの暗号化を無視する)

トリガー、ビュー、ストアードプロシージャ、及び関数の WITH ENCRYPTION ステートメントを無視します。このオプションは Add WITH ENCRYPTION を上書きします。